



今月は「イエメン」を覚えてお祈りください

イエメンは、中東のアラビア半島南端部に位置する共和制国家である。ただし、インド洋上の島々の一部も領有している。首都はサナア。

イエメンの経済・政治・宗教について

イエメンはアラブ諸国の中でも最も貧しい国の一つだ。量は少ないが原油の輸出が国の収入の75%を占めている。サウジや東の隣国に出稼ぎに出ている者たちからの仕送りも重要な収入源の一つだ。失業率は非常に高い。農業や畜産に携わっている国民は75%にもものぼる。少しずつ減っていく原油や水源は人口増加に大きな課題を突き付けている。

イエメンの歴史には多くの戦争がある。北部は1918年までオスマン帝国の一部であった。その後独自の孤立した自治を保っていたが、1962年にエジプト主導のもとで改革がおこった。イエメンの南は1967年の独立までイギリスの支配下にあった。イエメンの南部は北部のリーダーシップの下で1990年に統一した。大統領を持つことである程度の民主主義が保たれているが現在の政治状況は弱く、規模の小さな内戦が頻繁に起こっている。

国の正式な宗教はイスラム教であり、法律もイスラムの教えに準じている。イエメンのイスラム教は保守的である。信教の自由はほとんどないが、移住者にはイスラムへの改宗は命じられてない。

イエメンのその他の情報

面積:531,869 km² (日本の約1.4倍) 人口:24,255,928 (日本の約20% 2010年時点)



首都「サナア」



カートを噛む男性



イエメンの子どもたち

| | |
|-------|--------|
| 宗教: | |
| イスラム教 | 99.92% |
| キリスト教 | 0.08% |

「らくだの大群、ミデヤンとエファの若いらくだが、あなたのところに押し寄せせる。これらシエバから来るものはみな、金と乳香を携えて来て、主の奇しいみわざを宣べ伝える。」
イザヤ 60:6

祈禱課題

イエメンの未伝部族や民族を覚えて

世界で最も福音が届けられていない国の一つである。人口増加が著しいこの国にはイエスにある救いを必要としている人々が多くいる。特に下記のような人々が未伝とされている。

北に住む部族—首都のサナアに住む人々や北と北東の山脈に住む民族たち。多くが遊牧民だ。

南イエメンの人々—アデン、タイズ、イブといった町々に住む人々。

ティハマ・アラブ人—海岸沿いの平地に住んでいる。湾岸戦争から生き延びた人々がこの地域に定住している。主要な町はホデイダ。

ハドラマウトの人々—シバムやタレムといった歴史的な町、そして港町であるムカラに住んでいる。

マーリ族—オマーンとの国境付近で暮らしている漁師民族。近代的な生活から離れている。

ソコトラ島民—17世紀までこの島には多くのクリスチャンがいた。しかし今ではクリスチャンはいない。本土から孤立しており、人道支援の働きをするのが難しい場所だ。

イエメン女性—一家から出て学び仕事をするのが難しい文化に暮らす女性たちに、どのようにイエス様のために生きていくことを伝えればよいのか。知恵が必要だ。

子どもたち—人口増加は子どもたちの多さを証明している。イエメンの一般家庭は貧しく、子どもたちは保護者からの十分な干渉や教育を受けずに育っていく。イスラム教ではお酒が禁じられているが、お酒の代わりに「カート」という葉っぱを噛む人が多い。カートを噛む習慣を持っている両親の下に生まれる子供は特に十分な監督を受けないまま育つ傾向がある。就学は限られた子どもしか受けられず、イスラム教の支配が強い。子どもの誘拐が組織的に行われている。

南アジア人—アデンという町で商売をしている。多くがイスラム教徒だが、ヒンズーやカトリッククリスチャンもいる。また300人ほどのユダヤ人イエメン人もいる。

ソマリア人—イエメンに移住したソマリア難民は50万人もいるとされている。少数のクリスチャンがいるがほぼ未伝である。